

看護師の回復期にある患者の“話を聴いてもらえた”と感じられた体験

～精神科急性期病棟における患者において～

中尾憲二¹⁾ 坂口幸恵¹⁾ 武田久美子¹⁾ 田中舞^{1)*} 遠藤綾乃¹⁾
永末洋子¹⁾ 高間さとみ¹⁾

- 1) 国立病院機構鳥取医療センター看護部 8 病棟
- 2) 鳥取大学医学部保健学科

Nurses' experiences that made patients feel that they were heard and understood

–For patients in recovery phase in the acute psychiatric ward–

Kenji Nakao¹⁾, Yukie Sakaguchi¹⁾, Kumiko Takeda¹⁾, Mai Tanaka^{1)*}, Ayano Endoh¹⁾,
Yoko Nagasue¹⁾, Satomi Takama²⁾

- 1) The 8th Ward, Department of Nursing, NHO Tottori Medical Center
- 2) School of Health Sciences, Tottori University Faculty of Medicine

*Correspondence: byoutou8@tottori-iryō.hosp.go.jp

要旨

本研究は、精神科急性期病棟において回復期にある患者の「看護師に話を聴いて貰えたと感じられた体験」の内容を明らかにすることを目的とした。B 病棟に入院中の患者 4 名に対して、「看護師に話を聴いて貰えたと感じられた体験」について、半構造化面接法によるインタビューを用いて質的に分析を行った。その結果、【1. 看護師の自然な態度・雰囲気】、【2. 看護師から気にかけて声を掛けられる】、【3. 看護師に気持ちを理解して貰える】、【4. 時間をおいて自分を見つめ直すことができる関わりを持たれる】という、4 つのカテゴリーが得られた。これらのことから、日常からの話しさや関心をもった関わりを持たれることや、気持ちをわかって貰える体験、自己理解が深まる体験が、「看護師に話を聴いて貰えたと感じられた体験」に繋がる事がわかった。鳥取臨床科学 8(2), 136-141, 2017

Abstract

The purpose of this study was to elucidate what made patients in the recovery phase in the acute psychiatric ward have "experiences that made them feel heard and understood by nurses." Semi-structured interviews were conducted on four patients hospitalized in Ward B on "experiences that made patients feel heard and understood by nurses" to conduct quantitative analysis. We extracted four categories from the interviews: 【1. Nurses' natural attitude and approachability】、【2. Being cared about and spoken to by the nurses】、【3. Having

feelings understood by the nurses】 and 【4. Interactions that encouraged patients to take time before reflecting on the self】. These results indicated that having friendly interactions with approachable and interested nurses, and having experiences that made them feel understood or which increased their self-understanding were conducive to "experiences that made patients feel heard and understood by nurses." Tottori J. Clin. Res. 8(2), 136-141, 2017

Key Words: 患者の体験, 患者-看護師関係, 精神科急性期病棟, 回復期の患者; patient experience, patient-nurse relationship, acute psychiatric ward, psychiatric patients in the recovery phase

はじめに

B 病棟は精神科急性期閉鎖病棟で、精神症状の悪化した患者を 24 時間受け入れており、急性期精神症状を脱した患者は回復期へと移行していく。一般的に、回復期の患者は不安を感じやすい時期にあり、私たちは、日々患者の話に耳を傾け、患者を支える看護を行っている。しかし、急性期ケアにおける時間的制約、不測の事態にも対応しなければならず、退院に向けた会議などの参加で患者と関わる時間が限られている現状がある。この様な現状の中、回復期にある患者より、「話を聴いて貰いたいけど話しができない」、「もっと話を聴いて貰いたい」などの意見を耳にする機会があった。林¹⁾は、「患者が語りたいたい時に、看護師はそれを手伝い、本当の気持ちを確かめたり、本人が聞いて欲しいように聞く、そうすることで患者-看護師関係が安定し深められ、その過程を通して患者は安心して看護師に依存できるようになる。それは患者がもっとも癒しを必要としている状態にあるときにも、自立・回復に向かう段階においても、ケアの基盤となる。」と述べている。私たちは、患者の訴えに耳を傾け接してきたつもりであったが、患者は満足していなかったのではないかと感じた。先行研究では、精神科入院患者が看護師に望む看護の 1 つとして、充分時間をとり、話をきいて貰うことと述べられている。B 病棟の患者も、充分に時間をとり看護師に話を聴いて貰う事を望んでいるのか、B 病棟で看護師に話を聴いて貰

えた体験はあるのか、またそれはどんな内容だったのかと考えた。そこで、精神科急性期病棟において回復期にある患者の「看護師に話を聴いて貰えたと感じられた体験」の内容を明らかにしたいと考え、今回の研究に取り組んだ。

用語の定義

- 1) GAF (Global Assessment of Function) 尺度: 機能の全体的評価。精神病状態を評価するために開発された尺度であり、0~100 の数字で評価し、点数が高いほど社会適応状態がよく、精神的に健康であると判断される。GAF 尺度が 51 以上の患者は、言動が精神症状に大きく左右されず病状が安定しているとみなされる。
- 2) 回復期: 急性期精神症状を脱し、社会復帰を目指している時期。病状が安定している時期。

I. 研究目的

精神科急性期病棟において回復期にある患者の「看護師に話を聴いて貰えたと感じられた体験」の内容を明らかにする。

II. 研究方法

1. 研究期間
201X 年 7 月から 5 ヶ月間。
2. 研究対象
精神科急性期病棟に入院中の以下の条件を満たし、かつ同意が得られた者とした。